

令和2年度

教科指導計画

教科・科目	国語・現代文B	単位数	2
-------	---------	-----	---

学年・クラス	2学年（ 必修 ・選択）	担当者	岡崎浩志
使用教科書	新編 高等学校 現代文B 改訂版 (大修館書店)		
使用副教材	新編 高等学校 現代文B「学習課題ノート」 (大修館書店) 最新国語便覧 (浜島書店)		

目標（何を定着させるのか？）

<ol style="list-style-type: none"> 1. 読解力を身に付けます。 2. 話すことや書くことをとおし、コミュニケーション力を養います。 3. 現代の様々な文章をとおり、想像力を豊かにし、思考力を高め、他者の心情を推し量る力を養います。 4. 言語文化に対する関心を深め、尊重する姿勢を身に付けます。

評価規準

	①関心・意欲・態度	②話す・聞く力	③書く能力	④読む能力	⑤知識・理解
評価の観点	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり、理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の意見や思いを、相手や場面に応じた適切なことばを用いて、筋道を立てて話したり、他人の話すことを的確に聞き取ったりする。	自分の意見や思いを、相手や場面に応じた適切な言葉を用いて、筋道を立てて適切に文章を書く。	現代や古典の様々な文章を的確に読み取って内容を正しく理解したり、読書に親しんだりする。	文学史や著名な小説家、代表作などの文学に関する知識に加え、発音・文法・表記・語彙といった言語や表現に関する知識を身に付けている。
割合	20%	20%	20%	20%	20%

学習評価（具体的にどのように評価されるのか）

評価対象/評価の観点	①	②	③	④	⑤	具体的な評価方法
授業への取り組み	○					授業の準備、授業中の態度
言語活動	△	○	○			発言や発表、作文など
課題提出	△			○	○	ワークブックなどの期限内提出、学習内容
定期考査、テスト			○	○	○	努力、学習意欲、向上心、達成限度

○は重視、△は参考

学期	月	単元	学習内容	評価規準
前期	4	随筆（１） ・「迷う」力のすばらしさ	・筆者の考えを、構成、展開に注意しながら正しく理解する。	・便利さを求める現代において、迷うことが人生の楽しみであり、豊かさであるという筆者の考えを読み取ることができたか。
	5	評論（１） ・情報の力関係	・論理的な文章を読むことで、生徒自身が問題意識を見出し、自分の考えを的確に表現できる。	・図形や文字や絵など、さまざまな情報の「力関係」について理解することができたか。
	6			
	7	小説（１）		
	8	・ナイン	・登場人物の置かれている状況や心情の変化を捉え、話の展開をつかむ。	・ナイン達の心の絆を、それが生み出された過程をしっかりと読み取ることができたか。
	9	詩 ・小緒なる古城のほitori	・それぞれの詩について、詩の言葉の持つ個性豊かな表現を味わう。	・詩の構成と内容、表現方法とその効果を理解できたか。
	10	小説（１） ・山月記	・主人公の変身の理由を話の展開に沿ってまとめる。	・李徴が陥った運命とその苦悩について深く読み取ることができたか。
	11	評論（２） ・ゴリラの思いやり	・「ゴリラの流儀」とはどのようなものかを読み取り、筆者の主張を理解する。	・ゴリラ的な世界とチンパンジー的な世界との違いを読み取っているか。
	12	・ウサギの耳はなぜ長い？	・共進化とはどのような概念かを理解し、自然界に対する興味を深める。	・進化について、筆者の説明を、具体例と関連づけて理解しているか。
1				
2				
3	・メディアって何？	・メディアの特性を理解し、筆者の主張を理解する。 ・メディアによってメッセージの印象がどのように変わるかを考える。	・メディアの特性を理解しているか。 ・「より確からしい情報」を獲得するためには、どのようなことが必要かを読み取っているか。	

令和2年度

教科指導計画

教科・科目	国語・古典A	単位数	2
-------	--------	-----	---

学年・クラス	2学年（必修・ 選択 ）	担当者	岡崎浩志
使用教科書	説話 随筆 故事 小説 漢詩 史話 (文英堂)		
使用副教材			

目標（何を定着させるのか？）

<p>1. 我が国の文化と伝統に関する関心を深め、古典に親しむ態度を育てます。</p> <p>2. 作者の人間や社会を見るするどい観察眼や考えの深さを学びます。</p> <p>3. 思想や価値観など古典の世界に生きる人間のものの見方、考え方を学びます。</p>
--

評価規準

評価観点	①関心・意欲・態度	②読む能力	③知識・理解
評価の観点	言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重して、進んで古典に親しもうとする。	古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方を豊かにする。	古典の理解に役立てるための音声や文法や表記や語彙を理解するとともに、文学史の知識を身に付けている。
割合	30%	30%	40%

学習評価（具体的にどのように評価されるのか）

評価対象/評価の観点	①	②	③	具体的な評価方法
授業への取り組み	○			授業の準備、授業中の態度
言語活動	△	○		発言や発表、作文など
課題提出	△		○	ワークブックなどの期限内提出、学習内容
定期考査、テスト		○	○	努力、学習意欲、向上心、達成限度

○は重視、△は参考

学期	月	単元	学習内容	評価規準	
前期	4	説話 ・なよ竹のかぐや姫	<ul style="list-style-type: none"> ・文法事項を正しく理解し、日本語の微妙なニュアンスの違いについて知る。 ・古典作品に親しむ姿勢を養う。 ・助動詞を正しく理解するとともに、さらに正しい口語訳をする力を養う。 ・重要語である「つれづれなり」や「ものぐるほし」などを手がかりにして筆者の心情を考察する。 ・何度も音読して、漢文の訓読に慣れる。 ・書き下し文を利用して、漢文訓読の原則や送り仮名返り点などについて理解する。 ・故事熟語が生まれた由来を学習して、その一般的な意味を正しく捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いに注意しながら正しく音読できたか。 ・動詞、形容詞、形容動詞、助動詞の活用の仕方や活用形、見分け方がわかるか。 ・文法を踏まえながら正しい口語訳ができたか。 	
	5	随筆 ・つれづれなるままに		<ul style="list-style-type: none"> ・語句の意味に注意を払い、文脈の展開を見きわめながら、文意をつかむことができたか。 	
	6	・雪のいとおもしろう 降りたりし朝			
	7	故事・小話 ・矛盾		<ul style="list-style-type: none"> ・文法に従って、正しい書き下し文を書くことができるか。 	
	8	・推敲		<ul style="list-style-type: none"> ・書き下し文・口語訳を正確に書くことができるか。 	
	9	・四面楚歌 ・朝三暮四			
	10	随筆 ・これも仁和寺の法師 ・ある人、弓射ることを習ふに		<ul style="list-style-type: none"> ・話の筋を、展開に従って正しく読み取り、その時々の様子を頭に思い描く想像力を身に付ける。 ・人間心理の深層には、自分でも気づかない怠け心のあることが指摘されている点を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書かれてある内容を正確に理解することができるか。 ・「初心の人、二つの矢を持つことなかれ」と言っている理由を理解することができたか。
	11	・ありがたきもの ・ゆく川の流れ		<ul style="list-style-type: none"> ・枕草子の「ものづくし」を通して、清少納言のものに対しての鋭い感覚を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ありがたきもの」として何を挙げているか、理解しているか。
	12	故事・小話			
後期	1	・蛇足	<ul style="list-style-type: none"> ・格言・成句の意味を正しく理解し、それをを用いて短文を作り、言語活動を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・故事・成句を用いて、正しい短文をつくることができたか。 	
	2	・漱石枕流		<ul style="list-style-type: none"> ・物語の展開を追いながら、漢文に親しむことができたか。 	
	3	・虎の威を借る狐			

教科・科目	地歴・日本史B	単位数	4
-------	---------	-----	---

学年・クラス	2学年（必修・選択）	担当者	鈴木 香代子
使用教科書	高校日本史（山川出版社）		
使用副教材	写真資料館 日本史のアーカイブ（とうほう）		

目標（何を定着させるのか？）

日本における歴史上の出来事を流れとともに理解し、日本の歴史を現代の日本の姿と関連づけて考えられるようになり、自分自身の見解や考え方を構築し、他人に伝えられるようになることが目標です。

授業の内容/考查の内容・観点（授業の進め方・考查でのポイントは？）

内容：我が国の歴史の展開について、課題意識を持って学習します。
 進め方：教科書と資料・ノートを中心に展開します。興味を持ったことを深く調べたり自分自身の考えをまとめて発表することもあります。家庭学習での予習・復習が必要です。
 考查：授業で学習したことの理解度、思考力・判断力、資料活用の技術が試されます。
 観点：興味・関心をもって意欲的に授業参加しているか、内容をしっかり理解し自分のものになっているか、知識を活用した思考・判断で表現できているかを観ます。

評価規準

	① 関心・意欲・態度	② 思考・判断・表現	③ 資料活用の技術	④ 知識・理解
評価の観点	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高めるとともに、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見出し、国際環境と関連づけて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色について認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連づけて総合的に理解し、その知識を身につけている。
割合	20%	30%	20%	30%

学習評価（具体的にどのように評価されるのか）

評価対象/評価の観点	①	②	③	④	具体的な評価方法
授業への取り組み	○	○	○	○	ノートの作成、積極的姿勢
提出物・発表	○	○	○	○	ノート、レポート、プレゼンテーション
試験	△	○	△	○	定期考査、単元テスト

○は重視、△は参考

学期	月	単元	学習内容	評価規準		
前期	4	第1部 原始・古代	第1章 古代社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> 歴史への関心を高めるとともに、歴史資料の特性や文化財保護の重要性に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。【①】 古代国家の形成と展開、文化の特色とその成立の背景についての基本的な事柄を、隋・唐など東アジア世界との関係と関連づけて理解し、知識を身につけている。【④】 		
			第2章 律令国家の形成			
			第3章 貴族政治の展開			
	5	第2部 中世	第4章 武家社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> 中世国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立の背景から課題を見出し、宋・元などとの関係と関連づけて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。【②】 		
			前期中間考査	考査・解答・解説 <ul style="list-style-type: none"> 準備から考査、解答、解説まで真摯に取り組んでいる【①】 		
	6	第2部 中世	第5章 武家社会の成長	<ul style="list-style-type: none"> 中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景について基本的な事柄を日明貿易など東アジア世界との関係と関連づけて理解し、その知識を身につけている。【④】 中世国家と社会や文化の特色に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択している。【③】 		
			7	第3部 近世	第6章 幕藩体制の成立	<ul style="list-style-type: none"> 近世国家と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高めている。【①】
	8	前期末考査	考査・解答・解説	<ul style="list-style-type: none"> 準備から考査、解答、解説まで真摯に取り組んでいる。【①】 		
			9	第3部 近世	第7章 幕藩体制の展開	<ul style="list-style-type: none"> 近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについての基本的な事柄を、ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係と関連づけて理解し、その知識を身につけている。【④】 近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容とその近代化の基盤の形成から課題を見出し、欧米諸国のアジアへの進出と関連づけて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。【②】
					第8章 幕藩体制の動揺	
10	第4部 近代・現代	第9章 近代国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> 近代国家の形成と社会や文化の特色について意欲的に追究している。【①】 近代国家の形成と社会や文化の特色に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択している。【③】 我が国の立憲国家としての展開についての基本的な事柄を、条約改正、日清・日露戦争とその前後のアジア及び欧米諸国との関係の推移と関連づけて総合的に理解し、その知識を身につけている。【④】 			
		11	第10章 近代日本とアジア	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦前後の対外政策の推移や戦時体制の強化など第二次世界大戦との関わりなどから課題を見出し、国際社会の動向などと関連づけて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。【②】 		
12	後期中間考査	考査・解答・解説	<ul style="list-style-type: none"> 準備から考査、解答、解説まで真摯に取り組んでいる【①】 			
		第4部 近代・現代	第10章 近代日本とアジア	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の再出発およびその後の政治や対外関係の推移から課題を見出し、占領政策と諸改革、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大と関連づけて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。【②】 		
	1		第11章 現代の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> 日本経済の発展と国民生活の変化についての基本的な事柄を、戦後の経済復興、高度経済成長と科学技術の発達、経済の国際化と関連づけて総合的に理解し、その知識を身につけている。【④】 		
	2	後期末考査	考査・解答・解説 <ul style="list-style-type: none"> 準備から考査、解答、解説まで真摯に取り組んでいる。【①】 			
	3	第4部 近代・現代	第11章 現代の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> 冷戦後から21世紀を迎えるにあたって、日本と国際社会との関わりや国際協力について理解し、その知識を身につけている【④】 		

令和2年度

教科指導計画

教科・科目	数学・数学Ⅱ
-------	--------

単位数	4
-----	---

学年・クラス	2学年（ 必修 ・選択）	担当者	谷口 健二・菊地 信明
使用教科書	新編 数学Ⅱ（数研出版）		
使用副教材	3 T R I A L 数学Ⅱ+B（数研出版）		

目標（何を定着させるのか？）

数学Ⅰで学習した整式の展開や因数分解・関数のグラフ・三角比などの基礎数学における理解を深め、その知識を活用し発展的な問題を考察・解決することを目標にします。また、日常的な事象を数学的に考察し、順序立てて課題を処理する態度を育てます。

授業の内容/考査の内容・観点（授業の進め方・考査でのポイントは？）

授業の内容：数学Ⅱ全範囲を実施します。
 授業の進め方：確認テストの実施・前時の復習から始め、授業展開の中では演習時間多く確保します。
 考査の内容：基礎計算など授業で扱った内容を基本とし、2割程度基礎を活用した応用問題も出ます。

評価規準

評価観点	② 関心・意欲・態度	② 数学的な見方・考え方	③ 数学的な技能	④ 知識・理解
評価の観点	数学的論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。
割合	10%	30%	30%	30%

学習評価（具体的にどのように評価されるのか）

評価対象/評価の観点	①	②	③	④	具体的な評価方法
授業の取組み	○	○	○	○	授業準備 授業態度 取組み状況など
課題	○	△	△	△	提出物 宿題など
各種テスト		○	○	○	考査

○は重視、△は参考

学期	月	単元	学習内容	評価規準	
前期	4	1. 式と証明 (1) 式と計算	3次式の展開と因数分解 二項定理 整式の割り算 分数式とその計算 恒等式	二項定理やパスカルの三角形の規則性に興味を持ち、整式の展開に利用する【関】 相加平均相乗平均の関係式に興味を持ち、証明に利用する【関】 多項式の展開式を考察し、二項定理やパスカルの三角形を利用できる【考】 等式・不等式の証明ができる【技】 整式の展開および整式の割り算ができる【知】	
		(2) 等式・不等式の証明	等式・不等式の証明		
	5	2. 複素数と方程式 (1) 複素数と2次方程式の解	複素数とその計算 2次方程式の解 解と係数の関係	2次方程式の解の範囲が拡張したことに興味を持ち、解の形を考察する【関】 2次方程式の解を考察し、複素数の範囲での因数分解ができる【考】 2次方程式の解と係数の関係式を利用できる【技】 複素数の四則演算ができる【知】	
		(2) 高次方程式	剰余の定理と因数定理 高次方程式	組立除法の便利さに興味をもち、整式の割り算に利用する【関】 剰余の定理を理解し、多項式の剰余を考察できる【考】 3次方程式を作成することができる【技】 高次方程式を解決できる【知】	
	6	3. 図形と方程式 (1) 点と直線	直線上の点 平面上の点 直線の方程式 2直線の関係	ある点を通る直線の方程式を公式化し、利用しようとする【関】 線対称となる点の座標を考察できる【考】 点と直線の距離を求めることができる【技】 内分点および外分点の座標や直線の方程式を求めることができる【知】	
					(2) 円
	7	(3) 軌跡と領域	軌跡と方程式 不等式の表す領域	軌跡や領域と座標上の点の動きに関して興味を持ち、図示できる【関】 不等式を満たす点の取り得る範囲を理解し、式の最大最小を考察できる【考】 点の軌跡を表す方程式を求めることができる【技】 不等式をみたす点の領域を図示できる【知】	
					4. 三角関数 (1) 三角関数
	9	前期期末考査			
	後期	1 0	(2) 加法定理	三角関数の加法定理 加法定理の応用	加法定理の導き方を考察し、図形を書こうとする【関】 三角関数の定義を理解し、加法定理を導くことができる【考】 三角関数の合成をすることで、関数の最大最小を求めることができる【技】 加法定理を理解し、代表角以外の三角比を計算できる【知】
5. 指数関数・対数関数 (1) 指数関数			指数の拡張 指数関数	座標上に点を打ち、指数関数のグラフの概形を考察しようとする【関】 指数法則を理解し、方程式を解決する計算式を立てられる【考】 指数関数の増減を理解し、グラフを描くことができる【技】 指数を用いた数および指数方程式の解決ができる【知】	
1 1		(2) 対数関数	対数とその性質 対数関数 常用対数	対数の計算方法に興味を持ち、計算を解略化しようとする【関】 常用対数に興味を持ち、桁数を求めるために利用しようとする【関】 桁数の求め方を考察し、常用対数を利用することができる【考】 対数関数の増減を理解し、グラフを描くことができる【技】 対数を用いた数および対数方程式の解決ができる【知】	
		後期中間考査			
1 2		6. 微分法と積分法 (1) 微分係数と導関数	微分係数 導関数とその計算 接線の方程式	微分係数の定義を考察し、接線の傾きを計算しようとする【関】 極限の意味を理解し、微分係数を求める式を立てることができる【考】 3次関数の接線の方程式を求めることができる【技】 微分係数および導関数の計算ができる【知】	
					1
2		(3) 積分法	不定積分 定積分 定積分と図形の面積	積分と面積の関係に興味を持ち、図形の面積を求めようとする【関】 場合分けが必要な面積の図を考察し、計算することができる【考】 積分の性質を活用し、グラフで囲まれた面積の計算ができる【技】 不定積分および定積分の計算ができる【知】	
					後期期末考査
3		演習問題 (数学Ⅱの全分野)			

学年・クラス	2学年 (必修) ・ 選択)	担当者	太田 道男(有朋高校)・谷口 健二・菊地 信明
使用教科書	改訂版 新編 数学B		
使用副教材	改訂版 3 T R I A L 数学Ⅱ+B		

目 標 (何を定着させるのか?)

ベクトル, 数列について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに, それらを活用する態度を育てます。

授業の内容/考查の内容・観点 (授業の進め方・考查でのポイントは?)

授業の内容: ベクトル, 数列について学習します。
 授業の進め方: 必要に応じて課題ノートを提出します。
 考查の内容: 基礎計算, 公式など授業で扱った内容が基本となります。応用問題も出ます。

評価規準

	③ 関心・意欲・態度	②見方・考え方	③技能	④知識・理解
評価の観点	ベクトル, 数列に関心を持つとともに, それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, ベクトルや数列における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル, 数列において, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	ベクトル, 数列における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 知識を身に付けている。
割合	10%	30%	30%	30%

学習評価 (具体的にどのように評価されるのか)

評価対象/評価の観点	①	②	③	④	具体的な評価方法
授業の取組み	○	○	○	○	授業準備 授業態度 取組み状況など
課題	○	△	△	△	提出物 宿題 レポートなど
各種テスト		○	○	○	小テスト 各考查

○は重視、△は参考

学期	月	単元	学習内容	評価規準
前期	4	第1章 平面上のベクトル	1 ベクトル 2 ベクトルの演算	<ul style="list-style-type: none"> ベクトルの向き, 相等について理解している。[知] 和や差における逆ベクトル, 零ベクトルの役割を理解している。[見] ベクトルの加法, 減法, 実数倍の計算の仕組みを理解している。[知] 有向線分で表されたベクトルについて, 和, 差, 実数倍を考察できる。[知] ベクトルの演算に興味をもち, 数式の演算法則との類似点を考察しようとする。[関] 1つのベクトルと同じ向きの単位ベクトルを式で表現して利用できる。[技] 有向線分表示されたベクトルを, 2つのベクトルの和, 差に表現できる。[技]
			3 ベクトルの成分	<ul style="list-style-type: none"> 成分表示されたベクトルの大きさ, 和, 差, 実数倍の計算ができる。[知] 成分表示されたベクトルを, 2つのベクトルの和, 差に表現できる。[技] 成分表示されたベクトルの平行条件を理解し, 計算に利用できる。[知] 座標平面上の点とベクトルの成分の関係について理解している。[知] 図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。[技]

	5		4 ベクトルの内積	<ul style="list-style-type: none"> ・内積のもつ図形的な意味を探ろうとする。〔関〕 ・内積は実数であることを理解している。〔見〕 ・ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができる。〔知〕 ・成分表示されたベクトルについて、内積を求めることができる。〔知〕 ・ベクトルのなす角を、内積を利用して求めることができる。〔知〕 ・ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。〔知〕 ・内積の性質（計算法則）を理解し、計算に利用できる。〔知〕 ・内積でベクトルの大きさが考察できることを理解している。〔見〕 ・ベクトルの大きさを内積におき換えて扱うことができる。〔技〕
			5 位置ベクトル	<ul style="list-style-type: none"> ・線分の内分点、外分点を位置ベクトルで表す公式を理解している。〔知〕 ・三角形の重心の位置ベクトルを表す公式を理解している。〔知〕
	6	前期中間考査	6 ベクトルの図形への応用	<ul style="list-style-type: none"> ・線分の内分点、外分点を位置ベクトルで表す公式を、実際の図形に適用できる。〔技〕 ・位置ベクトルの一意性を理解し、図形の性質を証明できる。〔見〕 ・3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。〔技〕 ・ベクトルの分解の一意性を理解し、計算に利用できる。〔見〕 ・線分上の点を、線分を $s:(1-s)$ に内分する点として処理できる。〔技〕 ・図形上の頂点に関する位置ベクトルを定めて、図形を考察できる。〔技〕 ・線分の長さ、垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。〔技〕 ・図形の性質を、位置ベクトルを利用して証明できる。〔知〕 ・メネラウス、チェバの両定理に興味をもち、ベクトルの問題に利用しようとする。〔関〕
	7		7 図形のベクトルによる表示	<ul style="list-style-type: none"> ・直線のベクトル方程式を理解している。〔知〕 ・直線のベクトル方程式の媒介変数処理ができる。〔技〕 ・直線上の点を位置ベクトルで考察し、直線の方程式と関連付けることができる。〔見〕 ・ベクトルを用いて円の性質を考察する意欲がある。〔関〕 ・直線のベクトル方程式を積極的に活用しようとする。〔関〕
	8	第2章 空間のベクトル	1 空間の点 2 空間のベクトル	<ul style="list-style-type: none"> ・空間における図形を、図や座標を利用して表すことができる。〔技〕 ・座標空間において、点の座標や原点との距離が求められる。〔知〕 ・空間のベクトルを平面上のベクトルの拡張としてとらえることができる。〔見〕 ・空間のベクトルを与えられた3つのベクトルで表すことができる。〔技〕 ・平行六面体におけるベクトルを、和の形に表すことができる。〔知〕
			3 ベクトルの成分 補充問題	<ul style="list-style-type: none"> ・空間のベクトルの成分を座標空間と関連付けて考察できる。〔見〕 ・成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。〔知〕 ・座標空間の点と空間のベクトルの成分の関係について理解している。〔知〕
	9	前期期末考査	4 ベクトルの内積	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルの内積を、平面から空間へ拡張して考察できる。〔見〕 ・成分表示されたベクトルについて、内積を計算できる。〔知〕 ・ベクトルのなす角を、内積を利用して求めることができる。〔知〕 ・線分の長さ、垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。〔技〕
		5 ベクトルの図形への 応用	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して、それらを利用できる。〔知〕 ・四面体の重心に興味をもち、その性質を位置ベクトルで考察しようとする。〔関〕 ・3点が定める平面上の点の位置ベクトルを一般的に考察し、その結果を利用しようとする。〔関〕 ・3点で定まる平面上に点Pがあることを、ベクトルで表現して利用できる。〔技〕 ・3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。〔技〕 ・ベクトルの分解の一意性を理解し、計算に利用できる。〔技〕 ・空間における図形を、1つの頂点に関する位置ベクトルで考察できる。〔見〕 ・位置ベクトルの一意性を理解し、図形の性質を証明できる。〔技〕 	
後期	10		6 座標空間における図形 補充問題	<ul style="list-style-type: none"> ・2点間の距離の公式を理解している。〔知〕 ・空間ベクトルを利用して、線分の長さ、分点の座標などを考察できる。〔見〕 ・座標平面に平行な平面の方程式を理解している。〔知〕

			<ul style="list-style-type: none"> ・球面の方程式に興味をもち、一般的な考察をしようとする。〔関〕 ・いろいろな球面の方程式が求められる。〔知〕 ・球面と平面が交わってできる図形を、連立方程式の解の集合として考察できる。〔見〕 ・球面の方程式から、中心、半径を読み取ることができる。〔技〕 ・座標平面に平行な平面と球面の交わりの方程式を求めることができる。〔知〕
	第3章 数 列	1 数列と一般項	<ul style="list-style-type: none"> ・数列の定義、表記について理解している。〔知〕 ・数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。〔関〕 ・数列に関する用語、記号を適切に用いることができる。〔技〕 ・数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。〔見〕
1 1		2 等差数列 補充問題	<ul style="list-style-type: none"> ・等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。〔見〕 ・等差数列の公差、一般項などを理解している。〔知〕 ・初項と公差を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。〔技〕 ・等差中項の性質に興味をもち、問題解決に取り組もうとする。〔関〕
		3 等差数列の和	<ul style="list-style-type: none"> ・等差数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。〔技〕〔知〕 ・自然数の和、奇数の和、偶数の和などが求められる。〔知〕
1 2	後期中間考査	4 等比数列	<ul style="list-style-type: none"> ・等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。〔見〕 ・等比数列の公比、一般項などを理解している。〔知〕 ・初項と公比を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。〔技〕 ・等比中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。〔関〕
		5 等比数列の和 補充問題	<ul style="list-style-type: none"> ・等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。〔技〕〔知〕 ・等比数列の和の公式を利用して、和の値から数列の一般項を求めることができる。〔技〕
1		6 和の記号 Σ	<ul style="list-style-type: none"> ・記号 Σ の意味と性質を理解し、数列の和が求められる。〔技〕〔知〕 ・数列の和を記号 Σ で表して、和の計算を簡単に行うことができる。〔見〕 ・自然数の3乗の和の公式を求めようとする意欲がある。〔関〕 ・第k項をkの式で表して、初項から第n項までの和が求められる。〔技〕
		7 階差数列 補充問題	<ul style="list-style-type: none"> ・数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。〔見〕 ・階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。〔知〕 ・初項から第n項までの和に着目して、一般項を考察できる。〔見〕 ・数列の和 S_n と第n項 a_n の関係を理解し、数列の一般項が求められる。〔知〕 ・階差数列利用、和 S_n 利用では、初項の扱いに注意して一般項が求められる。〔技〕
2		8 いろいろな数列の和	<ul style="list-style-type: none"> ・$f(k+1)-f(k)$を用いる和の求め方に興味をもち、具体的な問題に活用しようとする。〔関〕 ・和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。〔技〕〔知〕 ・群数列に興味をもち、考察しようとする。〔関〕 ・群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。〔見〕
3	後期期末考査		

教科・科目	理科・化学基礎	単位数	2
-------	---------	-----	---

学年・クラス	2学年 (必修) ・ 選択)	担当者	浦田麻衣
使用教科書	東京書籍 改訂 新編化学基礎		
使用副教材	東京書籍 改訂 ニューステップアップ化学基礎		

目 標 (何を定着させるのか?)

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養います。

授業の内容/考査の内容・観点 (授業の進め方・考査でのポイントとは?)

授業内容：1編 物質の構成 2編 物質の変化
進め方：教科書を中心に進め、時々ワークを使用します。また必要に応じて小テストも実施します。
考査：授業内容の確認 (8割) 学んだことを活用する応用問題 (2割) を出題します。

評価規準

	④ 関心・意欲・態度	⑤ 思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
評価の観点	自然の事物・現象に興味関心を持ち、化学との関連を意欲的に探究しようとする姿勢が見られるか。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して事物を科学的に考察、判断できること、さらに導き出した考えを的確に全体に表現できるか。	観察や実験を行い、操作方法を習得し、それらの過程や結果を的確に記録、整理しながら自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けているか。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。
割合	20%	30%	20%	30%

学習評価 (具体的にどのように評価されるのか)

評価対象/評価の観点	①	②	③	④	具体的な評価方法
定期考査		○		○	年4回実施
実験・レポート作成	○	△	○	○	適切な観察・期日内の提出
授業への参加態度	○	○	△		授業中の積極性・取り組み状況
小テスト	○	△		○	年10回程度実施

○は重視、△は参考

学期	月	単元	学習内容	評価規準
前期	4	序編 化学と人間生活 1編 物質の構成 1章 物質の成分と構成元素	生活の中の化学 1節 物質の成分	化学の成果によって作られた材料がどのように加工されているか、また物質の化学的な働きの原理を理解し、社会でどのように利用されているか、材料や化学反応の種類と具体例を調べ、考えることができる。【①】【②】 純物質と混合物の違いについてわかり、混合物の分離と精製について観察と実験を行い、その原理を調べ、表すことができる。【③】【④】
	5	2章 原子の構造と元素の周期表	2章 物質の構成元素 3節 物質の三態 1節 原子の構造	物質を構成する元素を炎色反応などの手法を用いた観察と実験によって調べようとし、単体と化合物の違いについて考えることができる。【①】【②】 熱による物質の三態の変化と拡散などの粒子の熱運動を観察と実験によって調べ、表すことができる。【③】 陽子、中性子、電子といった原子の構造についてわかる。【④】

	6	3章 化学結合	2節 電子配置と周期表	電子殻と電子配置、荷電子について調べようとする。【①】 元素の性質と周期律について考えることができ、観察と分析を通じて、物質を分類して表すことができる。【②】【③】
	7		1節 イオンとイオン結合	イオンの生成とイオンについて理解し、価数をイオン式で表す方法がわかる。【④】
	8		2節 分子と共有結合	共有結合と高分子化合物を関連付け、配位結合の仕組みと錯イオンについて考えることができる。【②】 共有結合によってできた分子を調べる観察と実験を行い、気体の発生方法と捕集法について分析し記録することができる。【③】 共有結合と分子の極性、電気陰性度による物質の性質の違いを理解し、分子間に働く力についてわかる【④】 共有結合の分子から出来ている様々な物質を調べ、代表的な高分子化合物についてわかる。【④】
	9		3節 金属と金属結合 4節 化学結合と物質の分類	金属結合と金属の性質とその性質が起こる仕組みを電子の動きと関連付けて考えることができる。【②】 金属結合と代表的な金属についてわかる。【④】 化学結合の種類とそれぞれの性質がわかる【④】
後期	10	2編 物質の変化 1章 物質と化学反応式	1節 原子量・分子量・式量 2節 物質質量	原子や分子の質量の相対質量による表し方、物質質量、化学変化における物質の量的関係を表す方法などを調べ計算できる【①】【④】 粒子の量の表し方の原理を理解し、気体や溶液の濃度の測定方法について考えることができる。【②】 アボガドロ数の意味やモルによる物質質量の表し方について考えることができ、理解する。【②】【④】 気体の分子量を観察と実験によって調べ表すことができる。【③】
	11		3節 溶液の濃度 4節 化学反応式とその量的関係	溶液の定義と性質について考えることができる。【②】 溶液の成分の量を表す方法についてわかる。【④】 化学変化を化学反応式によって考えることができる。【②】 化学反応式の書き方についてわかる。【④】 化学変化による物質の量的変化を考えることができる。【②】 化学変化の量的関係についてわかる。【④】
	12	2章 酸と塩基	1節 酸と塩基 2節 水素イオン濃度とpH	酸と塩基の性質や反応について酸と水素イオン、塩基と水酸化物イオンとの関係を調べようとする。【①】 酸と塩基の性質を水素イオンと水酸化物イオンの価数に関連付けて考えることができ、理解する。【②】【④】 水の電離とpHの意味を理解し、水溶液の液性の強弱の仕組みを考えることができる。【②】
	1		3節 中和反応と塩 4節 中和滴定	酸と塩基が打ち消しあって中和する反応を滴定曲線に描いて考えることができる。【②】 中和の量的関係を中和滴定によって適切な指示薬を使って調べ、表すことができる。【③】【④】 中和によって塩が生成されることを考えることができる。【②】 中和と塩、塩の性質についてわかる。【④】
	2	3章 酸化還元反応	1節 酸化と還元 2節 酸化剤と還元剤	代表的な化学反応の1つである酸化還元反応の仕組みを酸化数と関連付けて理解し、その利用例について調べようとしている【①】 酸化反応と還元反応を電子の授受と関連付け、酸化数を計算して考えることができる。また、主な酸化剤と還元剤をあげ、その役割と酸化還元反応を酸化還元反応式にして考えることができる。【②】 酸化剤と還元剤の働きについて酸化還元反応式をつくり、調べ、表すことができ、主な酸化剤と還元剤の種類がわかる。【③】【④】
	3		3節 金属の酸化還元反応 4節 酸化還元反応の応用	金属のイオン化傾向をイオン化列に並べ、金属の反応性に関連付けて考えることができ、理解する。【②】【④】 人間生活における酸化還元反応を利用した電池の簡単な構造や電気分解について考えることができる。【②】 酸化還元反応の人間生活における利用例とその反応について考え、電気分解についてわかる。【④】

令和2年度

教科指導計画

教科・科目	理科・生物	単位数	4
-------	-------	-----	---

学年・クラス	2学年 (必修・ 選択)	担当者	田中 到
使用教科書	東京書籍 改訂 生物		
使用副教材	東京書籍 改訂 Let's Try Note 生物Vol. 1～3		

目標 (何を定着させるのか?)

生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識を持って観察、実験等を行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養います。

授業の内容/考査の内容・観点 (授業の進め方・考査でのポイントとは?)

授業内容：1 生命現象と物質 2 遺伝子のはたらき 3 生殖と発生 4 生物の環境応答 5 生態と環境 6 生物の進化と系統
 進め方：教科書に合わせたワークシートを使用します
 考査：授業内容の確認 (7割以上) 学んだことを活用する応用問題 (2割) 出題します

評価規準

	⑥ 関心・意欲・態度	② 思考・判断・表現	③ 技術	④ 知識・技能
評価の観点	生物や生物現象についての観察・実験などを意欲的に行うとともに、自然に対する関心や探求心をもち、生物学の原理・法則を理解しようとする。	生物学の原理や法則を理解し、様々な生物や生物現象に当てはめて考えることができる。	観察・実験結果をまとめ、導き出した考えを的確に表現できる。	生物や生物現象についての概念や原理・法則を理解している。
割合	20%	30%	20%	30%

学習評価 (具体的にどのように評価されるのか)

評価対象/評価の観点	①	②	③	④	具体的な評価方法
定期考査の成績	○	○		○	年4回実施
実験・レポート作成	○		○		適切な観察・期日内の提出
授業への参加態度	○	○	○	△	授業中の積極性・取り組み状況

○は重視、△は参考

学期	月	単元	学習内容	評価規準
前期	4	1編 生命現象と物質	1章 生体物質と細胞	<ul style="list-style-type: none"> 細胞小器官や生体膜について考えることができる。〔思・知〕 葉緑体の動きを確かめ、原形質流動について調べることができる。〔技〕 クエン酸回路及び電子伝達系について考えることができる。〔思・知〕 代謝の仕組みがわかる。〔知〕 DNAの構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳の仕組み、そして遺伝子発現の調節を学び、バイオテクノロジーの原理とその応用について調べようとする態度が育っている。〔関・思〕
			2章 タンパク質の構造と酵素	
			3章 細胞間の相互作用とタンパク質	
			4章 代謝とエネルギー	
	5	2編 遺伝子のはたらき	1章 DNAの構造と複製	
			2章 遺伝情報の発現	
6	前期中間考査	3章 遺伝子の発現調節		
		4章 バイオテクノロジー		

	7	3編 生殖と発生	1章 生物の有性生殖 2章 動物の発生 3章 動物の発生のしくみ 4章 植物の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・減数分裂による遺伝子の分配と受精により遺伝的に多様な組み合わせをもつ子が生じることを理解するとともに、遺伝子の連鎖と組換えについても調べようとする。〔関・思・技〕 ・優性形質や劣性形質による遺伝の法則、遺伝子の連鎖と組換えにより遺伝子の組み合わせが変わることを考えることができる。〔思・知〕 ・発生初期の細胞分裂である卵割から器官分化の始まりまでの過程について考えることができる。〔思〕 ・動物の細胞の分化と形態形成がわかる。〔思・知〕 ・植物の配偶子形成と受精、胚発生と花器官の分化について調べようとする態度が育っている。〔関・思〕 ・受精卵が分裂を繰り返して胚が形成されることや種子の形成を考えることができる。〔思〕
	8			
	9	前期期末考査		
後期	10	4編 生物の環境応答	1章 動物の刺激の受容と反応 2章 動物の行動 3章 植物の環境応答	<ul style="list-style-type: none"> ・外界の刺激を受容し、神経系を介して、反応する仕組みを学び、刺激に対する反応としての動物個体の行動について調べようとする。〔関〕 ・環境に応じた反応をする動物の行動がわかる。〔思・知〕 ・植物が刺激に応答する仕組みを調べようとする態度が育っている。〔関〕 ・植物ホルモンの働きを考えることができる。〔思〕 ・地球上の生物の環境と適応がわかる。〔思・知〕
	11			
	12	後期中間考査 5編 生態と環境	1章 生物の多様性と生態学 2章 個体群と生物群集 3章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・個体群レベルから順にそれぞれの段階で繰り返される生物のさまざまな営みと、環境との関係を調べようとする態度が育っている。〔関〕 ・生物群集の成り立ちや、食物連鎖を考えることができる。〔思〕 ・生物群集とその構造がわかる。〔知〕 ・生態系における物質生産とエネルギー効率について学び、生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を調べようとする〔関〕
	1		4章 生態系と生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性、外来生物の影響により個体群の絶滅の可能性のあることを考えることができる。〔思〕 ・生態系と生物多様性がわかる。〔知〕
	2	後期期末考査 6編 生物の進化と系統	1章 生命の起源と生物の変遷 2章 進化のしくみ 3章 生物の系統	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の進化に関係している地球環境の変化を考えることができる。〔思〕 ・生物界の変遷と地球環境の変化がわかる。〔知〕 ・生物の遺伝と進化の関わり仕組み、種分化を考えることができる。〔思〕 ・生物の変異と進化、系統がわかる。〔知〕
	3			

教科・科目	保健体育・体育	単位数	2
-------	---------	-----	---

学年・クラス	2学年 (<u>必修</u>) ・ 選択)	担当者	小山 暢彦
使用教科書			
使用副教材			

目 標 (何を定着させるのか?)

1. 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わいます。
2. 健康・安全を確保し、公正・協力・責任・参画などに対する意欲を高め、自己の状況に応じた体力向上を図る能力を身に付けます。
3. 集団的活動を通して、コミュニケーション能力を高めます。

授業の内容/考査の内容・観点 (授業の進め方・考査でのポイントは?)

授業内容：①体づくり運動、②体育理論、③器械運動 (マット運動) ④陸上競技 (競争、跳躍、投てき)、
⑤球技 (バスケットボール、フットサル、ソフトボール、バレーボール、バドミントン、卓球)、
⑥ダンス、⑦スキー

進め方：軽度の技能練習によるウォーミングアップにより体を温め、実戦練習の中で各自ができることを見つけ、スポーツに何らかの形で積極的に参加する習慣付けを目指します。

考査内容：日々の取り組み状況による。また、各種目のスキルテストを実施。内容は種目ごとに提示します。

観点：基本的な技能が身についているか、技能の向上を楽しみ、努力しているか。
ゲーム練習の中で攻防の駆け引きを楽しみ、ポジショニングやスペースの意識を持ちながら展開ができるか、などを観ます。

評価規準

	①関心・意欲・態度	②技能	③思考・判断・表現	④知識・理解
評価の観点	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正・協力・責任・参画などの意欲をもち、健康・安全に留意して自ら運動しようとしている。また、周囲を喚起する発言や行動を積極的にとる等して、集団に貢献しようとしている。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行い、技能の向上を図っている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指し、適切な目標の設定やフィードバックをしている。また、集団での役割を見つけ、適切な状況判断をし、行動している。	それぞれのスポーツに対する技能・体力の高め方や、ルール等を理解している。また、体育理論における運動・スポーツの学び方について理解している。
割合	20%	40%	20%	20%

学習評価 (具体的にどのように評価されるのか)

評価対象/評価の観点	①	②	③	④	具体的な評価方法
授業の取り組み	○	△	○	○	授業態度や用具の準備・片づけ等の取り組み状況。
学習ノート	△		○	△	提出物 (個人ノート、班ノート、プリント) の内容。
スキルテスト	△	○	△		各領域で提示
貢献度合い	○	○	○	○	準備、練習、試合、片付けにおいて、集団への貢献につながる行動をしているか。

○は重視、△は参考

学期	月	週	単元	学習内容	評価規準	
前期	4	4	オリエンテーション	年間の見通し	話を聞き、理解しようとしているか【関】	
		4	体づくり運動	体ほぐしの運動 新体力テスト	運動に積極的に参加し、楽しむことができるか【関】 全国平均と照らし合わせて点数を算出【技】	
	5	4	体育理論①	スポーツの技術と技能	技術と技能の違いを説明できる【知】 クローズドスキルとオープンスキルについて具体例を挙げて説明できる【知】	
		5	球技・選択Ⅰ ・バスケットボール ・フットサル	基礎・応用練習・ゲーム練習	技能向上に向けて積極的に取り組んでいる【関】 的確な自己診断により、自己の課題を理解している【知】 自分やチームの強みと弱みをみつけ、作戦を立てている【思】 効率的なフォームやスペースを意識した動きができる【技】 得点やアシスト、インターセプトやブロック等によってチームに貢献した動きをしている【技】	
	6	4	領域選択 ・器械運動 ・ダンス	マット運動、跳び箱運動 創作ダンス 現代的なリズムのダンス	技の習得に向けて意欲的に取り組んでいる【関】 発表に向けて計画・実行し、改善点を見つけ出している【思・技】 ダンスの特性に応じて、交流や発表ができるよう、イメージを深めた表現や踊りを身に付けている【思・技】 ダンスの学習に自主的に取り組もうとしている【関】	
			・陸上競技	競走・跳躍・投擲	記録の向上を目指し、積極的に取り組んでいる【関】 記録に応じて点数を算出する【技】	
	7	4	体育理論②	技能の上達過程と練習	技能の上達過程を理解し、自己の計画を立てられる【知】	
		8	2	・ソフトボール (バレーボール)	基礎・応用練習・ゲーム練習	技能向上に向けて積極的に取り組んでいる【関】 的確な自己診断により、自己の課題を理解している【知】 自分やチームの強みと弱みを見つけ、作戦を立てている【思】 効率的なフォームを意識した動きができる【技】
		9				
	後期	10	5	体づくり運動	新体力テスト（一部）	記録の向上を目指し、積極的に取り組んでいる【関】 記録に応じて点数を算出する【技】
				体育理論③	技能と体力	技能と体力の関係と、それらが高める時の留意点について説明できる【知】
				・バレーボール		選択Ⅰ同様
11		4	球技・選択Ⅱ ・バドミントン ・卓球	基礎・応用練習・ゲーム練習	選択Ⅰ同様	
12		3	体育理論④	体力トレーニング	トレーニングの目的を明確にし、最も効果的な運動をみつけることができる【思・知】	
			冬季体育大会種目		体育大会をより楽しむために技能の向上を図っている【関】	
1		2	球技・選択Ⅱ ・バドミントン ・卓球	基礎・応用練習・ゲーム練習	選択Ⅰ同様	
			体育理論⑤	体力トレーニング	筋力、持久力、調整力、柔軟性を高める具体的な方法を挙げることができる【知】	
2		4	・スキー		積極的に取り組んでいる【関】 ターンやスピードをコントロールができる【技】 フォーメーション滑走において、仲間とともに構成を考え、より良い滑走を目指している【思】	
3		3	体育理論⑥	運動・スポーツにおける 安全の確保	運動中のけがについて検証し、原因と対策について考察できる【思】 自分たちの住む地域の気象条件や自然環境の変化に伴って考えられる危険を挙げることができる【知・思】	
			選択球技	基礎・応用練習・ゲーム練習	運動の楽しさや喜びを深く味わい、卒業後に少なくとも一つの運動が継続できるようにする。【関】	

教科・科目	保健体育・保健	単位数	1
-------	---------	-----	---

学年・クラス	2学年 (必修 ・ 選択)	担当者	小山 暢彦
使用教科書	最新高等保健体育[改訂版] (大修館書店)		
使用副教材			

目標 (何を定着させるのか?)

1. 社会生活における健康の保持増進について、個人生活のみならず社会生活との関わりを含めて総合的に理解できるようにします。
2. 自らの健康管理、健康的な生活行動、健康的な社会環境づくりなどが実践できるようになるための基礎的な資質や能力を身につけます。

授業の内容/考査の内容・観点 (授業の進め方・考査でのポイントは?)

授業内容：生涯を通じる健康について、社会生活と健康について、心肺蘇生法について (実習)
 進め方：教科書・プリントを中心に展開。また、調べ学習やロールプレイ、ブレインストーミングを取り入れます。
 考査：年2回 (前期・後期) 実施します。
 観点：日々の取り組み状況によります。また、基本的な内容について理解し、問題をよく読み解答しているか。自己の考えを記述できるかを観ます。

評価規準

	⑦ 関心・意欲・態度	② 思考・判断・表現	③ 知識・理解
評価の観点	生涯の各段階における健康課題に応じた自己の健康管理の必要性、保健医療機関の活用、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。	生涯の各段階における健康の課題や自己管理の重要性、保健・医療機関の活用や、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について、課題の設定や解決の方法を考え、選択すべき行動を判断し、表現している。	生涯の各段階における健康の課題や自己管理の方法、保健・医療機関の活用や、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について理解し、課題解決に役立つ知識を身につけている。
割合	20%	30%	50%

学習評価 (具体的にどのように評価されるのか)

評価対象/評価の観点	①	②	③	具体的な評価方法
授業の取り組み	○	△	○	授業態度、取り組み状況、用具の準備など
学習プリント	○	○	○	提出物 (授業プリント)
課題プリント		○	△	提出物 (課題)
テスト		△	○	定期考査、小テスト

○は重視、△は参考

学期	月	単元	学習内容	評価規準	
前期	4	4 オリエンテーション	保健の授業内容について見通しを立てる	話を聞き、理解しようとしている【関】	
		1. 思春期と健康	思春期の心とからだについて	性に関する情報や説明等をもとに、適宜マーカーやメモをとるなどして学習内容の理解に努めている【関】	
	5	2. 性への関心・欲求と性行動	性意識には男女差があること 正確な情報の見極めについて		
		3. 妊娠・出産と健康	母体の健康維持について	学習のねらいを理解し、そこに挙げられている事項についての説明を記述できる【知】 記述問題については基本的にA・B・Cで評価 A：主述を明確にし、具体例などを用いて論理的に説明している B：大雑把に説明し、何となく伝わってくる C：矛盾点や主述の不明確な部分があり、伝わりにくい	
	6	4. 避妊法と人工妊娠中絶	安全な避妊法と人工妊娠中絶について		
		5. 結婚生活と健康	結婚生活の基盤について		
	7	6. 中高年期と健康	中高年期の健康について	加齢に伴う心身の変化について具体例を挙げることができる【思】 中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みについて説明できる【知】	
		7. 医薬品とその活用	医薬品の正しい安全な使い方について		
	8	8. 医療サービスとその活用	医療機関の役割と医療サービスの活用について	医療に関する説明等をもとに、必要な情報を積極的に入手できる【関】 得た情報をまとめ、日常生活への活用について考えることができる【思】 学習のねらいに挙げられている事柄について説明できる【知】	
		9. 保健サービスとその活用	保健行政の取り組みや、保険サービスの活用について		
9	4	前期末考査	前期で学習した内容について理解度をはかる。	各単元に関する問題の読解状況に応じて点数をつけ、評価する【思・知】	
		考査問題返却・解説 前期のまとめ	考査問題の解説と前期のまとめについて		
後期	10	10. さまざまな保健活動や対策	ヘルスプロモーションに基づく保健活動について	健康の保持増進を図るために、健康課題に対応して各種の保健活動や対策が行われていることについて理解している。【知】	
		1. 大気汚染と健康	大気を汚染する原因とその健康影響について	環境問題に関する情報や説明等をもとに、適宜マーカーやメモをとるなどして学習内容の理解に努めている【関】	
		2. 水質汚濁、土壌汚染と健康	水や土壌を汚染する原因とその健康影響について		
	11	3. 環境汚染を防ぐ取り組み	環境汚染状況の変化と、その防止策について	環境問題と健康の関係を理解し、自分にできることを考え、説明できる。【関・思・知】	
		4. ごみの処理と上下水道の整備	ごみの適切な処理と安全な水の確保について		
	12	3	5. 食品の安全を守る活動	食品が健康に及ぼす影響と、食品の安全確保について	食品の安全のために、管理者・生産者・消費者の立場ですべきことを説明できる【知】
	1	2	6. 働くことと健康	働き方の変化とそれともなう健康課題について	職業に関する情報を積極的に集めることができる【関】 職業に関する情報をもとに、自己の将来について具体的かつ現実的にシミュレーションし、健康保持の手段を導き出せる【思・知】
	2	4	7. 働く人の健康づくり	労働者の健康保持増進について	各単元に関する問題の読解状況に応じて点数をつけ、評価する【思・知】
			後期末考査	後期で学習した内容について理解度をはかる。	
	3	4	考査問題返却・解説	考査問題の解説と1, 2学年で学んだ内容のおさらいと、調べ学習。	最後まで気を抜かず、積極的に知識の整理に努めている【関】 これまでの学習で身につけた知識及び資質や能力を生かして課題解決に取り組んでいる【関・思】

令和2年度
教科指導計画

教科・科目	外国語・ コミュニケーション英語 I	単位数	3
-------	-----------------------	-----	---

学年・クラス	2学年 (必修 ・ 選択)	担当者	中谷 亮太
使用教科書	LANDMARK Fit English Communication I (啓林館)		
使用副教材	LANDMARK Fit English Communication I Workbook (啓林館)、Database4500完成英単語・熟語(桐原書店)		

目 標 (何を定着させるのか。)

1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする力を身につけます。
2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する力を身につけます。
3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えようとする力を身につけます。
4. 言語や運用についての知識を身につけ、背景にある文化を理解する力を身につけます。

授業の内容/考查の内容・観点 (授業の進め方・考查でのポイントは?)

授業内容：コミュニケーション活動に必要な4技能をバランス良く学習します。
 まとまりのある文章を音読したり、読解したりして、英文の流れを理解します。
 進め方：教科書・ワークブックを中心に展開します。授業は原則英語で行います。定期的にALTと言語活動や異文化理解を中心とした授業を展開します。教科書・ファイル(プリント)・辞書・Database4500の4点セットです。
 考查：授業で学習した文法やレッスンの理解度、新しく得た知識を確認します。また、リーディングテストやスピーキングテストを実施します。
 観点：積極的に授業へ参加しているか、宿題を意欲的に行っているか、内容について理解しているか。また、考查や単元テスト、単語テスト、リーディングテスト、スピーキングテストを観ます。
 留意点：わからないことは積極的に質問して下さい。積極的にクラスメート皆とコミュニケーションを取りましょう。

評価規準

評価の観点	⑧ コミュニケーションへの関心・意欲・態度	②外国語表現の能力 (Speaking)	③外国語表現の能力 (Writing)	④外国語理解の能力 (Reading)	⑤外国語理解の能力 (Listening)
		・聞き手を意識したコミュニケーションに向かう態度をとることができる。 ・提出物や授業内の活動に積極的に取り組むことができる。	・自分の意見を理由をつけて話すことができる。 ・複数回のやりとりを連続して行うことができる。	・接続語を活用し、論拠のある文を書くことができる。 ・聞いたり、読んだりした文の要旨をつかんでまとめることができる。	・概要や要点をとらえることができる。 ・接続語を意識し、文全体の流れをつかむことができる。 ・単語の読み方を理解し正しく音読することができる。
割合	20%	20%	20%	20%	20%

学習評価 (具体的にどのように評価されるのか)

評価対象/評価の観点	①	②	③	④	⑤	具体的な評価方法
授業の取り組み	○	○	○	△	○	取り組み状況、授業での積極性、
提出物	○	△	○	○	○	宿題や課題など
テスト		○	○	○	△	定期考查・小テスト

○は重視、△は参考

学期	月	単元	学習内容	評価規準
前期	4	Lesson1	What Can Blood Type Tell Us? (進行形、助動詞、受動態)	・血液型と性格の関係についての諸説について理解し、日本と世界における血液型の捉えかたの違いを知り、自分の意見を表現できる。【①】【②】【③】【④】【⑤】
	5	Lesson2	Curry Travels around the World (動名詞、現在完了)	・カレーの起源とその広まりに関する歴史について読み、興味のある物事を時系列にそって説明することができる。【①】【②】【③】【④】【⑤】
	6	前期中間考査 Lesson3	School Uniforms (比較)	・日本と諸外国における制服の特徴やその役割について理解し、制服に関して自分の意見を持ち議論することができる。【①】【②】【③】【④】【⑤】
	7	Lesson3		
	8	Lesson4	Gorillas and Humans (不定詞)	・ゴリラと人間の違いやゴリラが今おかれている状況について知り、ゴリラを守るために何をすべきか考え、表現できる。【①】【②】【③】【④】【⑤】
	9	前期期末考査		
後期	10	Lesson5	“gr8” or great? (関係代名詞、間接疑問文)	・言葉の移り変わりや世代独特の言葉の使い方や意味について理解し、日本における言葉の変化について意見を持ち表現できる。【①】【②】【③】【④】【⑤】
	11	Lesson6	Biodiesel Adventure	・時間や場所の変化に気をつけながら旅行記を読んで内容をとらえ、絵や図などを用いて内容をまとめることができる。【①】【②】【③】【④】【⑤】
	12	後期中間考査 Lesson7	Eco-tour on Yakushima	・世界自然遺産に登録されている屋久島に関する話を読み、礼文島と比較し、礼文の自然をどう守るか考えることができる。 【①】【②】【③】【④】【⑤】
	1	Lesson8	Mariko Nagai, Super Interpreter	・日本を代表する通訳者の長井さんの英語学習に関する物語を読み、自分のこれまでの学びへの取り組みを振り返り、新たな学びの姿勢を持つことができる。【①】【②】【③】【④】【⑤】
	2	Lesson9 学年末考査	Space Elevator	・スペースエレベーターに関する専門的な文章を読んだ経験をもとに、世界の最先端技術について調べまとめることができる。【①】【②】【③】【④】【⑤】
	3	学年のまとめ	1年間のまとめ	1年間で学んだことを元に、自由英作文ができる。 【②】

教科・科目	家庭・家庭総合	単位数	2
-------	---------	-----	---

学年・クラス	2学年 (<u>必修</u> ・ 選択)	担当者	須賀千博
使用教科書	新家庭総合 ～ともに生きる 暮らしをつくる～ (教育図書)		
使用副教材	トータルデータ ver. 2.0 資料+食品成分表 (教育図書)		

目 標 (何を定着させるのか?)

- ①身近な生活の中から課題を見出し、解決に向けて主体的に取り組める能力を養います。
- ②家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけます。

授業の内容/考査の内容・観点 (授業の進め方・考査でのポイントは?)

<p>授業内容</p> <p>家庭生活に付随する身近な事象を様々な分野から総合的に学習します。</p> <p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教科書や補助資料から基礎的知識を学びます。 ②調理実習や被服製作実習を通し、基礎的技術を身につけます。 ③習得した基礎的な知識・技術を実験や体験を通し、科学的・理論的に学びます。 ④視聴覚教材や統計資料・新聞等から身近な課題を考えます。 <p>考 査</p> <p>授業で使用したプリントの他に教科書やノートから出題します。</p>
--

評価規準

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解していると同時に、それらに係る技能を身につけることができる。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見出し、課題を設定し、解決策を構想する。また、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現するなどして課題を解決する力を身につけることができる。	様々な人と協同し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践することができる。
割合	50%	30%	20%

学習評価 (具体的にどのように評価されるのか)

評価対象/評価の観点	①	②	③	具体的な評価方法
授業の取組み	△	○	○	授業態度、取組み状況
授業課題	△	○	○	提出物 (個人ファイル、プリント etc.)
実技課題	○			製作課題
テスト	○	○		考査

○は重視、△は参考

学期	月	単元	学習内容	評価基準
前期	4	○衣生活	・マスクを作ってみよう	□基本的な採寸や手縫いが行えたか【①】
	5	○消費生活	・暮らしとお金のかかわりは	□家庭経済と国民経済のかかわりを理解できたか【①】
			・暮らしに必要なお金は	□消費者として主体的に判断し、責任を持って行動する重要性を理解できたか【②】
			・何をどうやって買う	□消費者の権利と責任を理解できたか【①】
	6		・自立した消費者とは	□成人年齢の引き下げにあたる、法律や契約について理解できたか【①】【②】
	7			
	8	○住生活	・だれが暮らすのだろう	□住居の機能を理解できたか【①】
	9		・どのように暮らす	□快適な住空間を計画し表現できたか【③】
		・地域のなかで暮らす	□バリアフリーや快適な住環境について理解できたか【①】	
後期	10	○食生活	・なぜ食べるの	□健康的で豊かな人生を送るために食生活のあり方について考えることができる【①】【②】
			・何を食べるの	□栄養所要量や食品群別摂取量のめやすを理解できたか【①】
			・食品の選択と取り扱い	□授業内容を理解し知識として定着できたか【①】
			・前期期末考査	□授業内容を理解し知識として定着できたか【①】【②】
	11			
	12	○食生活	・食と暮らしのかかわりを知ろう	□調理やマナーを理解し実践できたか【①】
	1	○食生活	・調理実習	□授業内容を理解し知識として定着できたか【①】
			・献立と調理	□献立を理解し調理実習を行えたか【①】
2		・調理実習	□衛生面を考慮し調理従事を行えたか。【①】	
			□栄養面を考慮し、献立を作成できたか【①】【②】	
			□授業内容を理解し知識として定着できたか【③】	
3	○学校家庭クラブ活動	・高齢者と触れ合おう	□高齢者とのかかわりを理解し積極的に参加できたか【③】	
		・ボランティア弁当	□高齢者の福祉について考えを深められたか【②】	
			□高齢者を意識した献立作成を行うことができたか【②】	
			□衛生面を考慮し調理従事を行えたか。【①】	
			□授業内容を理解し知識として定着できたか【④】	
	○環境	・学年末考査	□授業内容を理解し知識として定着できたか【①】	
		・生活を見つめてみよう	【②】	
		・環境のためにできることって？	□環境に配慮した生活を送る態度が身についたか【③】	

教科・科目	商業・簿記	単位数	2
-------	-------	-----	---

学年・クラス	2学年（必修・ 選択 ）	担当者	保坂剛司
使用教科書	新簿記（実教出版）		
使用副教材	最新反復式 簿記検定問題集 全商3級（実教出版）		

目標（何を定着させるのか？）

企業において日常発生する取引を仕訳し、勘定記入を経て、決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解させるとともに、帳簿や財務諸表を通じて、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を育成します。

授業の内容/考査の内容・観点（授業の進め方・考査でのポイントは？）

- 授業内容：簿記に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、仕訳や諸表簿から様々な情報を読み取り、最終的には財務諸表とよばれる企業の経営状態を表した「損益計算書」および財政状態を表した「貸借対照表」、双方を組み合わせた「精算表」の作成を目指します。
- 授業の進め方：教科書、問題集、プリントを中心に学習していきます。
- 考査の内容：主に授業で学習した内容を中心に、問題集やプリントからも出題されます。内容は簿記の基本である仕訳から帳票類の記述、財務諸表の作成までの範囲となります。

評価規準

	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
評価の観点	個人企業における簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身につけている。	色々な処理法や記帳法について、何故そのように処理（記録・計算・整理）を行うのかを自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。 また、ビジネスの諸活動を計数的に把握した成果を適切に表現できる。	個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理することができる。	個人企業における簿記や財務管理に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、簿記の基本的な仕組みと記帳方法について理解している。
割合	20%	30%	20%	30%

学習評価（具体的にどのように評価されるのか）

評価対象/評価の観点	①	②	③	④	具体的な評価方法
学習活動の取り組み	○	○	△	○	授業態度、授業教材の準備、発言、課題の進捗状況
提出物	△	○	○	○	提出課題
定期試験	○	○	○	○	定期考査、単元テスト、小テスト

○は重視、△は参考

学期	月	単元	学習内容	評価規準	
前期	4	第1編 簿記の基礎	第1章 簿記の基礎 第2章 資産・負債・純資産と貸借対照表	<ul style="list-style-type: none"> ・企業における簿記の意味・目的・種類・歴史についての基礎的な知識を深めることは、簿記を学ぶうえで重要な役割を果たすことを理解している。【④】 ・資産・負債・純資産・貸借対照表について、進んでその基礎情報を入手して活用し、その方法を身につけようとしている。さらにその計算方法を利用して貸借対照表の形式で開示することで表現できる。【②】 ・資産・負債・純資産・貸借対照表について把握し、基礎情報を入手する方法を説明することができる。【③】 	
	5		第3章 収益・費用と損益計算書 第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記の基礎概念の収益や費用について、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用し、損益計算書を作成しようとしている。また損益計算書を作成し、開示することによって表現できる。【②】 ・簿記の基礎概念の収益や費用について、基礎的・基本的な知識と技術を身につけるとともに、損益計算書の作成の方法を説明することができる。【③】 ・簿記上における取引の意味や、勘定・勘定科目・勘定口座などの意味を理解しているか。【④】 ・仕訳の意味や勘定口座の転記に関する基礎的・基本的な知識を把握し、その記入の仕方を理解している。【④】 	
	6		第6章 仕訳帳と総勘定元帳 第7章 試算表	<ul style="list-style-type: none"> ・仕訳帳と総勘定元帳の基本的・基礎的な記帳の仕方を活用して適切に判断し、その方法を身につけている。また仕訳と転記の正確性を仕訳帳と総勘定元帳の作表によって表現できる。【②】 ・仕訳帳・総勘定元帳の記帳の基礎的・基本的な知識について把握し、その記帳処理についても理解している。【④】 ・試算表の役割や種類についての知識を深め、その作成の仕方を身につけている。また計算の正確性を試算表の作成によって表現できる。【②】 	
			前期中間考査	考査・解答・解説	
				第8章 精算表	<ul style="list-style-type: none"> ・精算表の役割や意味について知識を深め、その作成の仕方を身につけている。また精算表の作成によって、貸借対照表・損益計算書を作成する上で重要なものであると理解している。【④】
	7			第9章 決算	<ul style="list-style-type: none"> ・決算を正確に行う心構え（態度）があるか。【①】 ・決算に関心を持ち、帳簿の締め切りなどの手続きや記帳処理能力を正確に身につけている。また決算整理をとおして損益計算書と貸借対照表を作成し、表現ができる。【②】
	8		第2編 取引の記帳	第10章 現金・預金などの取引	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記上の現金の入金・出金・当座預金・当座借越の基本的な取引に関心を示し、意欲的にその記帳の仕方を身につけようとしている。【①】
			前期期末考査	考査・解答・解説	
	9		第2編 取引の記帳	第11章 商品売買の取引	<ul style="list-style-type: none"> ・商品売買の取引についての知識を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用し、その記帳の仕方を判断して処理することができる。【③】

後期	10	第2編 取引の記帳	第12章 掛け取引	・掛取引をするうえで欠くことのできない基礎的・基本的情報を入力し、その活用法を見出そうとしている。またその内容を仕訳を用いて適切に表現できる。【④】
			第13章 手形の取引	・手形の種類（約束手形と為替手形）や手形の裏書・割引や記入帳に関する知識を高め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し処理している。【②】
	第14章 有価証券の取引		・有価証券に関する取引についての基礎的・基本的知識を身につけ、その記帳処理を理解している。【④】	
	第15章 その他の債権・債務の取引		・前払金勘定や前受金勘定、借用証書や手形による金銭の貸借についての基礎的・基本的な知識を身につけ、正確に記帳して処理することができる。【③】	
	第16章 固定資産の取引		・固定資産の基本的な取引をおこなうための基本的・基礎的な知識を深め、その記帳処理の合理化を見出している。またその取引の仕訳を用いて適切に表現できる。【④】	
	11	後期中間考査	考査・解答・解説	
		12		第17章 個人企業の資本と税金
	第18章 販売費及び一般管理費と税金の種類			・個人企業の純資産や追加元入れと引き出しの基礎的・基本的な知識を深め、記帳処理を身につけ、純資産の増減について説明することができる。【③】
	1	第3編 決算I	第19章 決算整理（その1）	・決算を正確に行う心構え（態度）があるか。【①】 ・決算に関心を持ち、帳簿の締め切りなどの手続きや記帳処理能力を正確に身につけている。また決算整理をとおして損益計算書と貸借対照表を作成し、表現ができる。【②】
	2		第20章 8桁精算表	・簿記上の現金の入金・出金・当座預金・当座借越の基本的な取引に関心を示し、意欲的にその記帳の仕方を身につけようとしている。【①】
3	後期期末考査	考査・解答・解説		
		第21章 帳簿決算と財務諸表の作成（その1）	・商品売買の取引についての知識を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用し、その記帳の仕方を判断して処理することができる。【③】	

教科・科目	商業・情報処理	単位数	2
-------	---------	-----	---

学年・クラス	2学年（必修・ 選択 ）	担当者	保坂剛司
使用教科書	最新情報処理 新訂版（実教出版）		
使用副教材	全国商業高等学校協会主催全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集2級（実教出版） 全商情報処理検定模擬問題集ビジネス情報2級（実教出版）		

目標（何を定着させるのか？）

ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てます。

授業の内容/考査の内容・観点（授業の進め方・考査でのポイントは？）

- 授業の内容：コンピュータや情報通信ネットワークを活用して、情報を収集・処理・分析し、オブジェクト（表やグラフ、画像など）を用いて表現する知識と技術を習得します。また全国商業高等学校協会が主催する「ビジネス文書実務検定試験」及び「情報処理検定試験」に関する内容について学習します。
- 授業の進め方：教科書、問題集を使用して進めていきます。
- 考査の内容：主に全国商業高等学校協会主催のワープロ文書実務検定試験及び情報処理検定試験に沿った内容と、教科書で学習した内容までが考査範囲となります。

評価規準

	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
評価の観点	○情報の収集・処理・分析・表現について関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を活用することを旨として主体的に取り組もうとするとともに、情報を活用する実践的な態度を身に付けている。	○ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基にビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	○情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	○情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、情報の意義や役割について理解している。
割合	20%	30%	20%	30%

学習評価（具体的にどのように評価されるのか）

評価対象/評価の観点	①	②	③	④	具体的な評価方法
授業の取り組み状況	○	○	○	○	学習教材の準備、授業態度、取り組み状況
課題	△	△	△	○	課題の提出状況、提出物
テスト	○	○	○	○	定期考査、小テスト

○は重視、△は参考

学期	月	単元	学習内容	評価規準
前期	4	・オリエンテーション ・文書作成ソフトウェアの活用（Word①）	・授業の在り方について姿勢 ・ブラインドタッチ ・速度計測演習	・入力練習を通じて、入力の速度と正確性が身に付いているか。【③】 ・キーボードの配置や各キーの機能の特徴、そしてブラインドタッチの有効性を理解しているか。【④】
	5			
前期	6	・文書作成ソフトウェアの活用（Word②）	・文書作成演習	・ソフトウェアを活用して、図形や表を作成する方法や、これらを文書に取り込み、ビジネス文書を作成するための技法を身に付けているか。【③】 ・文書情報の特徴について説明できる。【④】
		・前期中間考査	・考査・解答・解説	

	7	・表計算ソフトウェアの活用① (Excel実技)	・全商情報処理検定試験2級対策演習 (実技部門)	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェアに興味、関心を持っているか。【①】 ・表計算ソフトウェアの基本的な関数やグラフの機能について理解しているか。【④】 ・情報を収集、処理し、報告書を作成するまでの一連の流れを、具体的に理解し、重要性を理解しているか。【④】 	
	8	・表計算ソフトウェアの活用② (Excel筆記)	・全商情報処理検定試験2級対策演習 (筆記部門)	<ul style="list-style-type: none"> ・リレーショナル型データベースについて積極的に学習しようとしているか。【①】 ・データベースを使って必要なデータベースを抽出するなど体験を通じ、基本的なデータベースの機能を理解しているか。【④】 	
	9	・前期期末考査	・考査・解答・解説		
		・検定試験対策	・全商情報処理検定試験2級対策問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・単元：表計算ソフトウェアの活用①、②で学習した内容を問題文に従い、関数やグラフを適切に表現できるか。【③】 ・単元：表計算ソフトウェアの活用①、②で学習した内容を正しく理解しているか。【④】 	
	後 期	10	・文書作成ソフトウェアの活用 (Word③)	・全商ビジネス文書実務検定試験2級実技対策演習	<ul style="list-style-type: none"> ・入力練習を通じて、入力の速度と正確性が身についているか。【③】 ・ソフトウェアを活用して、図形や表を作成する方法や、これらを文書に取り込み、ビジネス文書を作成するための技法を身につけているか。【③】
		11	・文書作成ソフトウェアの活用 (Word④)	・全商ビジネス文書実務検定試験2級筆記対策演習	<ul style="list-style-type: none"> ・文書の種類や作成、プレゼンテーションについて、校正記号やキー操作について、正しく説明することができるか。【②】
			・検定試験対策	・全商ビジネス文書実務検定試験対策問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・単元：文書作成ソフトウェアの活用③、④で学習した内容を基に問題文に従って、文書を作成し表現できるか。【③】 ・単元：文書作成ソフトウェアの活用③、④で学習した内容を正しく理解しているか。【④】
			・後期中間考査	・考査・解答・解説	
12		・表計算ソフトウェアの活用③ (Excel実技)	・全商情報処理検定試験2級実技対策演習	<ul style="list-style-type: none"> ・各種のデータを基にグラフの種類とその特色を理解し、目的に応じた適切なグラフを選択して作成することができるか。【③】 ・各種のデータを基に目的に応じて、関数を用いて適切に表現できているか。【③】 	
1	・表計算ソフトウェアの活用④ (Excel筆記)	・全商情報処理検定試験2級筆記対策演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ハードウェア・ソフトウェアについて興味を持ち、その特徴や意味について積極的に学習しようとしているか。【①】 ・情報モラルとセキュリティについて理解し、知的財産権や危険性を正しく判断し、配慮をすることができるか【②】 ・データベースソフトウェアについて、正しく理解しているか。【④】 		
	・検定試験対策	・全商情報処理検定試験2級対策問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・単元：表計算ソフトウェア③、④で学習した内容を基に、問題文に従って、必要な関数やグラフを用いて、適切に表現できるか。【③】 ・単元：表計算ソフトウェア③、④で学習した内容を正しく理解しているか。【④】 		
2	・表計算ソフトウェアの活用⑤ (Excel)	・全商情報処理検定試験1級の応用問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・単元：これまでに学習してきた表計算ソフトウェアについて、問題文に従って、正しく表現できるか。【②】 ・単元：これまでに学習してきた表計算ソフトウェアについて、正しく理解しているか【④】 		
	・映像制作①	・映像構成と展開について	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や他の生徒が作成した映像作品の構成 (プロット) について、その良い点や改善点を適切に評価できる。【②】 ・分かりやすく伝えるための映像構成・編集の基本を理解している。【④】 		
	・後期期末考査	・考査・解答・解説			
3	・映像制作	・映像編集について	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や他の生徒が作成した映像作品について、その良い点や改善点を適切に評価できる。【②】 ・視聴者に対する見やすさを考慮した映像作成をするための基本的な技法について理解している。【④】 		

令和2年度

教科指導計画

教科・科目	水産・水産海洋基礎
-------	-----------

単位数	2
-----	---

学年・クラス	2学年（必修・ 選択 ）	担当者	田中 到
使用教科書	海文堂出版株式会社 水産海洋基礎		
使用副教材			

目 標

- ・水産や海洋の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解させます。
- ・各分野の学習を通して、水産や海洋に関する諸課題に興味、関心を持たせ、主体的、合理的、かつ倫理観を持った考え方を養います。

授業の内容/考査の内容・観点

- ・基礎的事項を中心に、海洋や、水産業について関心興味を持てる授業を展開します。
- ・日本の魚食文化などを取り上げる中で、海洋、水産物と生活の関わりについて理解させます。
- ・考査では授業で使用了教材で扱った内容を中心に、一部思考力を問うものを出題します。

評価規準

	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
評価の観点	・海洋に対する関心や探求心を持ち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や水産業、海洋について探究する能力と態度を身につけている。	・生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえられる。 ・生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえられる。	・生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、実験・観察の技能を習得している。 ・科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果及びそこから導き出した考えを的確に表現することができる。	・生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。 ・自然界の様々な事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけている。
割合	20%	30%	20%	30%

学習評価（具体的にどのように評価されるのか）

評価対象/評価の観点	①	②	③	④	具体的な評価方法
授業・実習の取組み	○	○	○	△	授業態度、取組み状況など
課題・発表	○	○	○	○	授業の準備、提出物、発表・発言の様子など
テスト		○		○	定期考査・単元テストなど

○は重視、△は参考

学期	月	単元	学習内容	評価規準
前期	4	第1章 海のあらまし (前期中間考査)	①世界の海 ②日本の海 ③海と食生活・文化・社会 ④海と生物 ⑤海と環境	・世界の海, 日本の海, 海と食生活・文化・社会, 海と生物, 環境について関心をもち, その基礎的な知識の習得に意欲的に取り組むとともに, 実践的な態度を身につけている。【①】
	5			・地元の海洋環境が食文化に及ぼす影響を考え, その因果関係について, 自らの意見をまとめることができる。【②】
	6			・海洋環境について, 自らの知識と考えをまとめ, 表現することができる。【③】
	7	第2章 水産業と海洋関連産業のあらまし (前期期末考査)	①船と暮らし ②水産業の歴史と現状 ③とる漁業 ④作り育てる漁業	・地元の食文化について調べ, 地域の環境と密接に結びついていることを表現できる。【③】
	8			・海洋の地形や流動について基礎的な知識を有している。【④】
	9			・海の規定や北海道周辺の海流や季節による環境変動について基礎的な知識を有している。【④】
	10	第3章 基礎実習 (後期期末考査)	①食品加工	・地元の食文化と海洋環境とのつながりを理解している。【④】
	11			・水産業の歴史と現状について関心をもち, その理解と今後の望ましい姿について積極的に思考し, 基礎的な知識と技術の習得に意欲的に取り組む態度を身につけている。【①】
	12			・地元の水産業の歴史について調べ, その変遷と海洋環境の変化が密接に結びついていることについて理解したことを元に, 望ましい将来像について, 自らの考えを表現することができる。【②】
後期	1	(学年末考査)	②海洋実習	・近年注目されている水産資源や海洋資源について調べ, 地元の水産資源や海洋資源で注目されるべき事項について自らの意見を持ち, 表現することができる。【②】
	2			・地元の養殖業について調べた結果をまとめて表現することができる。【③】
	3			・食品の保蔵法について, いくつかの手段を体験的に再現することができる。【③】
	4			・食品の保蔵法と流通技術の歴史について学び, 離島環境における食品加工の変遷とのつながりをまとめて表現できる。【③】

教科・科目	家庭・生活産業基礎	単位数	2
-------	-----------	-----	---

学年・クラス	2学年（必修・ 選択 ）	担当者	須賀 千博
使用教科書	なし		
使用副教材	なし		

目標（何を定着させるのか？）

地域産業などの見学や職業人の講話などにより、産業や職業生活についての見地を深め、改めて島を守りながら未来への可能性を考える機会を持ちます。また、進路実現に向け知識・技術的向上に積極的、継続的に取り組みます。

授業の内容/考査の内容・観点（授業の進め方・考査でのポイントは？）

授業の内容：生活の変化と生活産業、生活の変化に対応した商品・サービスの提供、生活産業と職業、職業生活と自己実現の4分野で構成し、現代社会について講義形式で学び、地域産業などの見学や職業人の講話などにより、産業や職業生活についての見地を深めます。

授業の進め方：プリント学習を基本とし、ファイルや課題（小論文・感想文など）を提出します。

評価規準

	④ 知識・技能	⑤ 思考・判断・表現	⑥ 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	地域産業に関する知識を身につけることができる。 ① 提出プリント ② 授業中の取り組み状況 ③ 発表の取り組み	地域に関する生活課題を主体的に解決するために思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力身に付けることができる。 ① 授業中の発言や取り組み状況 ② 課題への取り組み状況	地域の様々な事象に興味を持ち意欲的に参加することができる。 ① 授業中の発言や取り組み状況 ② 課題への取り組み状況
割合	30%	30%	40%

学習評価（具体的にどのように評価されるのか）

評価対象/評価の観点	①	②	③	具体的な評価方法
授業の取組み	△	△	○	授業態度、取り組み状況
授業課題	△	○	○	提出物（個人ファイル、プリント etc.）
実技課題	○	○	○	製作課題

○は重視、△は参考

学期	月	単元	学習内容	評価基準	
前期	4	○生活産業基礎を学ぶに 当たって ○社会の変化と産業	・生活産業基礎を学ぶにあたって ・生活産業とは ・働く人に求められること ・産業構造の変化と発展 ・生活産業とライフスタイル	□産業構造の変化について理解し、それに従事する 人達に求められる資質を知ることができたか 【①】	
	5				
後期	6	○生活産業と職業	・産業を知る 水産業と観光業 ① 観光業 特産品を使った商品開発 ② 食分野 販売と原価計算 マーチャンダイジング 商品検討 販売及び売り上げ計算	□流通業界の発達と、その仕組みを理解することが できる【①】	
	7			□地域産業を知り、また他産業について理解を深 めることができる【①】	
	8			□職業人における必要な資質を理解し、実践でき る【①】	
	9			□市場の動向を把握し、そのニーズに合わせた商 品提案ができる【②】【③】	
	10			・OPENプロジェクト発表	□身に付けた知識や技術を発信することができた か【②】【③】 □授業内容を理解し知識として定着できたか【①】
	11			・礼文学発表会	□身に付けた知識や技術を発信することができた か【②】【③】 □将来に向かって働くことの意義を身につけるこ とができたか【①】【②】【③】
	12				□授業内容を理解し知識として定着できたか【①】
	1			・産業を知る	□流通業界の発達と、その仕組みを理解すること ができる【①】
	2				□地域産業を知り、また他産業について理解を深 めることができる【①】
	3				□職業人における必要な資質を理解し、実践でき る【①】 □市場の動向を把握し、そのニーズに合わせた商 品提案ができる【②】【③】 □授業内容を理解し知識として定着できたか【①】